

山田・栗源支所の 窓口業務の見直しは



木村 博 議員

児童手当、高額医療費等の申請等、改正見直しは

支所長の職には課長級を任用すべき

Q 平成31年4月1日からの窓口業務の改正に伴い、支所での児童手当、高額医療費等の申請等が受けられないのは不便。再考できないか。

Q 支所には、いつ災害が起きても対応や判断ができる管理職が必要である。また人員の適正人数を確保し、住民サービスを図るべきと考えるが。

A 正規職員は、合併当時の921人から588人となり、約36.2%削減しました。このような中、平成31年4月に支所業務の見直しを行い、来庁にかかる時間が、車で30分を超えないよう小見川支所の機能を維持することとしました。また、支所での取り扱いが少ない業務や専門性の高い業務の所掌は見直しを行い、各種証明等の発行および本庁への取り次ぎを中心に行うこととしました。なお、国民健康保険の高額療養費や児童手当の現況届に関しては、受付時に詳細な書類確認があるため、山田支所および栗源支所では取り扱わない業務としました。

A 令和2年度から、意思決定のスピードアップおよび災害時対応の強化を図るため、支所課に山田支所および栗源支所を担当する管理職である副参事1人を配置したほか、災害発生(警戒)時には、体制強化のため、山田支所・栗源支所に必要に応じて職員を配置できる体制としています。また、職員の人員配置に関しては、職員数が減少する中、その規模の適正化を図る必要から、組織の見直しを行い、事務量に応じた職員の配置に努めています。



栗源支所窓口

質問事項

- ◆小見・竹之内・米野井地区における基盤整備事業の進捗状況
- ◆山田・栗源地区の支所窓口の各種申請等の改正・見直し
- ◆本庁の窓口業務
- ◆大型公共工事等の凍結

交通手段のない 空白地域の解消を



久保木 宗一 議員

循環バス等高齢者の足の確保を

公共交通空白地域への波及を検討していきま

Q 市内公共交通空白地域の解消をどのように考えているか。とりわけ、利根川北岸の津宮新田、大倉新田、磯山など新島東側地区、一ノ分目新田、三ノ分目新田、富田新田の公共交通空白地域の改善策をどのように考えているか。

Q 全国の市町村では、次々に自治体独自の市内公共交通システムを確立実施しているが、市民の足である市独自の地域公共交通の具体的システムと実施はいつか。

市内公共交通確立と実施はいつか

A 交通手段を持たない市民の移動ニーズは、通勤通学を除いた場合、主に通院や買い物であり、移動頻度は、通院の場合は多くても週に1日程度であるため、地域によっては、大型のバスは不要とも考えられます。このような事例として、福田小学校区では、主として高齢者の交通手段を確保するための実証運行を令和2年4月から開始し、高齢者の移動特性に応じて、運行間隔を週に2日(火曜日・木曜日)、車両を10人乗りのワゴン車としました。今後は、この実証運行を検証しながら、それぞれに地域の特性を把握したうえで、適切な交通モードを考慮しながら、他の

A 公共交通の具体的システムと実施時期は、令和2年度から令和6年度までを計画期間としている「香取市地域公共交通網形成計画」で、路線バス・循環バス・乗り合いタクシー・一般タクシーなどの適切な機能分担を推進し構築することとしています。「都市拠点」(佐原駅周辺、小見川駅周辺)や「地区拠点」(山田支所周辺、栗源支所周辺)を活用し、全体として利便性を向上させていくことが必要と考えています。この一環として、路線バスでは、令和2年4月に大倉線のダイヤを変更し、通勤通学時の利便性を向上させたほか、

質問事項

- ◆市の地域公共交通の整備計画
- ・スクールバスの循環バスへの利用
- ・循環バスのエリア拡大
- ・乗り合いタクシーのエリア拡大
- ・市内公共交通空白地域の解消
- ・高速バスの増便と定期券の必要性
- ・市独自の公共交通の具体的システムと実施

栗源成田空港線では「ザ・ファーム」付近までの路線延長を、上の台線では山田支所を経由するよう一部路線変更を協議しています。また、循環バスは、鉄道との接続環境向上や路線の大規模な見直し等を令和3年度に実施するため、準備しているところです。



高齢者の交通手段となる循環バス